慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　1回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時　午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

第29回 慶應医学賞授賞式・受賞記念講演会開催

慶應医学賞は1996年から始まった慶應義塾医学振興基金の主要事業の1つである。今年のノーベル生理学・医学賞を受賞した米国・マサチューセッツ大学のヴィクター・アンブロス博士（第18回（2013年）慶應医学賞受賞）とノーベル化学賞を受賞した本年の受賞者でもあるデミス・ハサビス博士を含め、これまでに本賞受賞者からノーベル賞受賞者を12名輩出しており、世界からも注目される国際的な賞である。

第29回（2024年度）慶應医学賞授賞式および受賞記念講演会が2024年11月20日に信濃町キャンパスの北里記念医学図書館2階北里講堂にて開催された。本年はGoogle DeepMind社Co-Founder兼CEOのデミス・ハサビス博士が、授賞研究テーマ「脳の計算原理に基づく人工知能による医学生物学研究の変革」によって受賞。京都大学高等研究院教授の斎藤通紀博士は、授賞研究テーマ「生殖細胞発生過程の再構築」によってそれぞれ受賞した。

授賞式では、はじめに慶應医学賞審査委員長の佐藤俊朗医学部教授から、今年の慶應医学賞は、昨年末から準備を開始し、今年2月に世界中の研究者、研究機関の長など数千人から推薦を募り、125名の候補者から4回の審査を経て、8月8日の最終選考会において、本年度の受賞候補者としてデミス・ハサビス博士と斎藤通紀博士を選定、慶應義塾医学振興基金運営委員会（委員長：伊藤公平塾長）に上申し、両氏が受賞者として決定したと審査報告がされた。

次に伊藤公平塾長からハサビス博士と斎藤博士にメダルと賞状が授与され、祝辞が述べられた。続いて、文部科学省より武部新副大臣、駐日英国大使館よりマーガレット・タング公使参事官に来賓としてお越しいただき、それぞれに祝辞を述べられた。最後に両博士が受賞に対する喜びやこれまでの研究の経緯、謝意を語り、授賞式は終了した。

続いて行われた受賞記念講演会で、ハサビス博士は"Accelerating scientific discovery with AI"と題し、深層ニューラルネットワークの科学への応用と、脳の計算原理に基づく汎用人工知能のさまざまな可能性を示された。斎藤博士は"Mechanism and *In Vitro* Reconstitution of Mammalian Germ-Cell Development"と題した講演で生殖細胞発生に不可欠な分子発見とマウスを使った研究への応用の経緯や、不妊や遺伝病の解明につながるヒトの生殖細胞発生メカニズム解明への展望を話された。講演会は来賓、教職員、学生など約200名を超える聴衆が聴き入り、それぞれの講演後に寄せられた複数の質問に両受賞者とも熱心に回答し、活発な議論が交わされた。

また、授賞式の前には慶應義塾大学病院の見学会も行われた。ハサビス博士と斎藤博士は、AI技術を活用したAIホスピタルの施設やサービスの説明を病院スタッフから受け、興味を持たれた様子がうかがわれた。

第29回慶應医学賞授賞式・受賞記念講演会の前日には、「斎藤博士の慶應医学賞講演を100倍楽しむためのミニシンポジウム」が開催され、講演テーマ『私の「小さな挑戦」』に沿って、斎藤博士が経験された幼少期のことから大学時代の思い出、これまでに数多くの「小さな挑戦」を積み重ねてきたことが現在に繋がっていると語られた。ユーモアを交えながらの講演は教員も学生も終始惹きつけられ、皆目を輝かせて聴いている姿が印象的なシンポジウムとなった。

左から、伊藤公平塾長、デミス・ハサビス博士、斎藤通紀博士、佐藤俊朗教授

ハサビス博士

斎藤博士

慶應義塾大学関連病院会
2024年度秋季総会報告

慶應義塾大学関連病院会2024年度秋季総会は2024年11月9日、慶應義塾大学病院大会議室において、45名の会員が参加し開催された。

会長開会挨拶に続き、慶應義塾大学病院松本守雄病院長（65回）のご挨拶、慶應義塾大学医学部門川俊明副医学部長（70回）のご挨拶があり、その後総会議事は以下の通り進行された。

1．庶務報告として、会員交代について、北里大学北里研究所病院 金子博徳新病院長（73回）が紹介され、としま昭和病院の退会が承認された。大変残念なこととして、さいたま市立病院 小山卓史院長（64回）の訃報が報告され、出席者全員で黙祷を捧げた。

2．門川副医学部長より、KMA（Keio Medical Alliance）基幹専攻医数2024の最新データに基づき、専攻医の大学病院への定着と関連病院への派遣を改善する取り組みについて、目標設定を挙げ説明された。

3．関連病院会所属の病院における常勤医師募集ポスター掲示、会員メンバーのメーリングリスト作成についての提案があり、討論が行われた。

議事の後に2題の講演が行われた。まず荻窪病院 布袋祐子病院長（71回）より、『病院業務のデジタルシフト～DX化による効率化と効果～』の題名にて、人から人へのタスクシフト・シェア、RPA、説明動画、AI問診などの人から機械へのデジタルシフトなど、一般病院でも可能な業務改善について紹介された。次に慶應義塾大学医学部小児科学教室 鳴海覚志教授（80回）より、『寝ることは育つは本当か？育児メモアプリのビッグデータ解析』という題名にて、主に乳幼児の睡眠、睡眠と成長について、ビッグデータ解析結果に基づき明快な解説がなされた。

総会終了後はレストラン ザ・パークに場所を移し、情報交換会を行った。厳しさを増している病院経営に関して、文字通り、活発な情報交換の場となった。

慶應義塾大学医学部・病院と関連病院相互の密接な連携の構築、情報の交換のために総会は春季、秋季の年2回行われている。今後も話し合われている内容について共有していきたい。

（関連病院会会長／東京都済生会中央病院院長　海老原　全（65回））

秋の叙勲 受章者一覧

瑞宝中綬章

西田　正人（産婦51回）
〈保健衛生功労〉
元（独）国立病院機構霞ヶ浦医療センター院長
（独）国立病院機構霞ヶ浦医療センター名誉院長

藤井　康男（精56回）
〈保健衛生功労〉
元　山梨県北病院長
元　慶應義塾大学医学部客員教授（精神・神経科学）

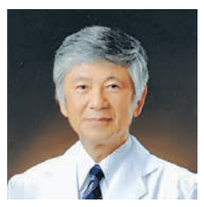
瑞宝双光章

三原　武彦（児48回）
〈学校保健功労〉
元　学校医
元　三原子育て支援センター長

秋の叙勲

瑞宝中綬章を受章して

西田　正人（51回）
国立病院機構霞ヶ浦医療センター名誉院長



私は卒業と同時に、スキー部の同輩だった小林祥泰（前島根大学学長）に誘われ北里大学病院の産婦人科レジデントになりました。

北里では、レジデントの3年目に、卵巣癌患者腹水から世界初の卵巣明細胞腺癌細胞株HAC-2を樹立し、培養過程で形成される細胞集塊が中空であることを証明してミラーボールと名付けて報告しました。

また、2度目の卵管妊娠の患者の卵管吻合術を行い、その後妊娠分娩させることができました。このことがきっかけで、生殖外科手術に興味を持ち、卵管のマイクロサージェリー、子宮奇形形成術などで新しい術式を開発しました。この北里での成功体験は、学生時代の成功体験とは異なり、全く勉強しなかった私に、今からでも遅くはない、やればできるという自信を植え付けてくれました。

北里での7年間の研修を終え、私は筑波大学に講師として赴任しました。筑波では組織培養の研究室を立ち上げ、すぐにエストロゲン・プロゲステロンレセプターを持つ子宮体癌細胞株Ishikawaの樹立に成功しました。この細胞は国内外から多くの分与依頼を受け、全世界で研究に使われました。他方、子宮と膣を欠損するロキタンスキー症候群患者を念頭に、子宮移植の動物実験も行っていました。これが後年木須伊織君（83回）の目に留まり、慶応で大きく発展していることを大変嬉しく思っています。

私が筑波に赴任すると同時に医学陸上競技部が誕生し、私が競走部出身であった関係で顧問教官になり、長く学生と付き合いました。現在、筑波の陸上部は隆盛を極めていますが、そのルーツは三四会競走部にあると思っています。

2001年に国立霞ヶ浦病院に赴任しました。ここで子宮腺筋症核出術を開発し、これが先進医療に認定され、既に2千例の症例を重ね、500例が妊娠し、300人を超える子供が誕生しています。退官後は特別診療役を拝命し、現在も現役で手術を続けています。

今回の受章は大変光栄ですが、浮かれる気持はありません。私はトランプ大統領と同い年です。同い年の人間がこれから4年間アメリカの大統領という激務に挑戦しようとしている訳ですから、少なくとも彼が大統領でいる間は私も現役で頑張ろうと思っています。そしてその先は、90歳を過ぎて現役パイロットとして大空を舞った高橋淳のように、生涯現役を目指しています。

瑞宝双光章を受章して

三原　武彦（48回）
国立病院機構霞ヶ浦医療センター名誉院長

学校保健功労で瑞宝双光章を受章した48回生の三原武彦です。

小児科医の祖父、外科医の父と親戚にも医師が多い家系に生まれ、子供が好きだったことから小児科医を選びました。学園紛争の中にいて研修は遅れましたが、オーベンの鈴木功一先生から小児科医としての教育を受けました。そして小佐野満講師からは医師としての生きざまを教わりました。それが私の生涯を決めることとなりました。

2年間の研修が終わったときに、坂上正道教授、山岸稔助教授、輿水隆講師の北里大学病院に私は河西紀昭君（48回）と後期病棟医として赴任しました。以降講師になりましたが色々ありまして妻の実家の四日市市に引っ越しました。三原小児科を1980年に開業しましました。2年後には三原クリニックに名称変更し、翌年から診察の合間に学校医（西日野にじ学園、笹川中学校、日永小学校）や園医2校、保育園2校の計7校を持つこととなりました。2024年3月でその生活を終えることとなりました。その活動が認められて、今回の受章になったと思われます。

2024年11月18日にホテルニューオータニで表章を受け、その後皇居にバスで向かいました。皇居の豊明殿で天皇陛下の祝福を受けました。一番前にいた私のそばまで陛下が来られ、車イスの隣の方は小さい方だったので、陛下も足を折られ、同じ高さで声をかけられていました。

災害に見舞われた時も腰を落として声がけしているのをテレビで見ていて、どの場所でも相手の目の高さで声がけされる陛下を改めて尊敬の眼差しで見ておりました。自分に声掛けされた何を話したらいいかを考えていましたが、次の方に移っていき、皇居での拝謁は終わりました。

2泊3日の東京旅行でしたが、思いがけない祝福と緊張で疲れも感じませんでしたが、帰宅したら私も、妻も、娘の全員がひどく疲れていました。

クラリベート アナリティック社 Highly cited Researchersに三四会員から4名が選出

権威ある学術調査会社クラリベート アナリティック社が毎年発表する、全ての科学分野における2024年Highly cited Researchers（高被引用論文著者）に、三四会員から金井隆典教授（内科学）、本田賢也教授（微生物・免疫学）、佐藤俊朗教授（医化学）、岸本泰一郎特任教授（ヒルズ未来予防医療ウェルネス共同研究講座）の4名が選出されました。

Highly Cited Researchersは、クラリベート アナリティック社により各分野に多大な貢献をした世界中の影響力のある科学者や社会科学者を選定し、毎年表彰するものです。この調査結果は、現在の科学研究においてどのような研究者の、どのような研究が注目されているかを知るためには、非常に有用でかつ最新のデータであると言えるでしょう。今年は、全世界で6，636名がHighly Cited Researchersとして選定されました。そのうち、日本の研究施設からの受賞者は78名です。

昨今、日本の研究力の低下が懸念されていますが、慶應医学はその中でも大健闘していることを示す結果であり、大変喜ばしいことです。今後も若手研究者も含めて信濃町キャンパスから多くのHighly Cited Researchersが選出されるよう期待しております。

（信濃町キャンパス担当常任理事　北川雄光（65回））

第11回野村達次賞 受賞者報告

医学の発展のために欠くことのできない動物実験システムの確立に一生を捧げられ「In vivo実験医学」の発展に尽くされた野村達次博士の業績をたたえるために創設された野村達次賞に対して、本年度も多くの素晴らしい候補者からの応募をいただきました。厳正なる審査の結果、第11回受賞者は下記の2名に決定いたしました。

11月30日の慶應医学会総会後の授与式では賞状と目録が授与されました。

生理学教室　准教授　掛川　渉（76相当）
受賞研究課題「In Vivo Synaptology for Elucidating the Molecular Basis of Learning and Memory」（記憶・学習過程の分子的理解を目指したIn vivo シナプス学）

先端医科学研究所がん免疫研究部門　教授　籠谷　勇紀（86相当）
受賞研究課題「Development of chimeric antigen receptor T cell therapy for refractory cancer」（難治がんに対するキメラ抗原受容体T細胞療法の開発）

令和6年度 第4回三四会理事会報告

- 三四会名簿発行：11月27日に発送予定。発行部数は6300部で、レターパックライトでの郵送可能範囲に抑えることで、約100万円の郵送料金を節約。例年通り不要となった名簿の回収を行うが、期間を2ヶ月間に短縮。個人情報保護法に基づき、「利用しなくなった内容は遅滞なく消去する」、「他人に渡したり、盗難や紛失によって流出しないよう注意する」が求められている。
- 連合三田会大会2024：例年通り救護班とイベント部会、赤倉山荘模擬店を行った。これまで明確になっていなかった事故等に係る保険加入が整備された。泥酔者が今回も出ており、自粛が必要であるとの意見があった。
- 産業医講習会：10月19日に開催した。希望者が多く、180名（内三四会員87名）の参加があった。
- 新会員管理システム：2023年4月に更新して、会員情報管理、会費請求、名簿作成まで一連の作業が一つのシステムで行えるようになった。順調に運用されてきたが、さらに有効利用の検討を始めている。

「医学部新年祝賀式」および「坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金に基づく慶應医学賞 ライジング・スター賞授賞式」の開催について（ご案内）

医学部長　金井　隆典

医学部では毎年新春に教職員および三四会員による祝賀式を催しておりますが、この度、新年祝賀式を下記により開催することにいたしました。

2025年は、ハイブリッド（現地：2号館11階大会議室）にて開催予定です。

新春早々ご多用のことと存じますが、是非とも現地、もしくは左記のウェビナーリンクよりご参加賜りますようご案内申し上げます。

また、本祝賀式と併せ「坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金に基づく慶應医学賞 ライジング・スター賞授賞式」を執り行います。

なお、祝賀式・授賞式後には現地での懇親会を開催いたします。

記

日　時　2025年1月6日（月）11時から13時30分（12時30分より現地での懇親会）
形　式　ハイブリッド（現地／zoomウェビナー）
現　地　慶應義塾大学病院2号館1階　大会議室
ウェビナーID　892 9863 3815
ウェビナーURL　https://keio-univ.zoom.us/j/89289863815
※下のQRコードからもご視聴いただけます

慶應義塾大学病院 年末年始の休診

年末年始は、12月30日（月）より1月4日（土）の間、休診となります。

病院長

鑑定知来

診断とは、患者の状態を医学的に解釈し、分類するプロセスである。ここではその過程を大きく三段階に分ける。一つは、病状を観察し医学的に分類する段階。次に、その原因を病態として説明する段階。そして最後に、その病態の理由を患者の生活や環境に求める段階である。この診断の多層性こそが、治療の方向性を決定する。

つまり、生物学的メカニズムを対象とし、病態に直接介入する治療だけでなく、患者の社会的背景や生活環境に着目する治療も存在する。昨今注目される「個別化医療」は、単にゲノムのような生物学的要因に基づくものにとどまらず、「患者中心の医療」と言われるように社会的要因のような個別性も重要な視点として含まれるべきだろう。

漢方医療でも、生物学的なアプローチに相当する患者の表現型に基づく個別化が主軸となるが、実際の診療現場ではそれだけでは不十分だ。患者ごとに異なる生活背景や価値観、さらには医療に対する期待感や疾病に対する感情といった要素への配慮が不可欠である。

診療においては、さらに患者がどのように自身の病を解釈し、どのような治療を求めているかを知ることが求められる。その解釈は患者独自のものであり、医師の視点からは想像しがたい場合もある。また、疾病が患者の日常生活に与える影響を具体的に理解することも、治療目標の策定において重要である。

現代医療の発展により、個別化の可能性はますます広がっている。しかし、それは単に技術の進歩に依存するものではない。患者一人ひとりの人生に寄り添い、その社会的背景を尊重した医療を実践すること。それこそが、AIには代替できない真の意味での「個別化医療」ではないだろうか。

（全人的漢方診断共同研究講座　吉野鉄大（87回））